

青森中央学院大学

事業名	留学生と地域交流－青森県の魅力発掘と活性化に向けて－						
実施期間	平成26年6月14日～6月15日、平成26年7月12日～7月13日						
場 所	青森県南部町(名川センターハウス、農家、ふれあい公園ジャックドまつり会場内)						
参加者	外国人留学生	地域住民	学生	スタッフ	関係者	来場者	合計
	20	15	4	3	4	100	146名

<実施内容>

青森中央学院大学では、6月と7月の2回にわたり、1泊2日の農家民泊とワークショップを行いました。留学生、日本人学生と南部町の住民のみなさんとさくらんぼを使用したスイーツの開発と交流を行いました。最終的には7月のジャックドまつりにて皆で開発したスイーツの紹介・配布を行いました。この活動を通して、本学の学生は農家民泊は地域交流の中で青森県への理解と知識を深めること、南部町のみなさんにとっては、本学の留学生と交流をすることで、新しい発想をもって交流していただきスイーツの開発をきっかけに町の活性化へ繋げていただくことを目的としました。



最後のワークショップ活動:スイーツの紹介・配布

1回目の農家民泊とワークショップでは、お世話になる農家の皆さんとの交流と農作業体験、ホームステイ体験を行いました。学生にとって日本人の家にホームステイする経験もありなく、一緒に生活することはとても刺激的だったようです。交流を通して南部町の農産物のことや、南部町でのくらしを教えてもらい、留学生たちは各国の生活習慣や農業のことについて意見交換をしました。翌日のワークショップでは、農業高校の学生のみなさんをはじめ、地域の方々にも参加していただきスイーツについて話し合いました。留学生からはパワーポイントを使用しての各国の人気のあるスイーツについて紹介しました。その後グループに分かれてどのようなスイーツを製作するか話し合いました。最終的には4種類のスイーツ案が検討され、お祭り向けにはこの4つのスイーツを制作することになりました。農家さんをはじめ、高校生、大学生、その他地域の方々幅広い年齢層での活動で色々な意見が出され、有意義なものとなりました。

2回目の農家民泊とワークショップでは、農家さんの指導のもとスイーツを実際に製作しました。それぞれのスイーツにはさくらんぼを使用するので、農家さんからは色の濃いさくらんぼを使用することや、スイーツを作るコツなどを教えてもらい、皆で挑戦しました。ふだんからスイーツを作っているお母さんたちの手伝いもあって、順調に試作を作ることが出来ました。その試作を作る中でも色々な意見交換ができました。ジャックドまつり当日は、さくらんぼのPRブースで新商品の紹介・配布をしました。

- ① 初めての農作業体験。農家さん② 第1回目ワークショップ。様々な方向からさくらんぼのスイーツを考案。③ それぞれのグループで考案したスイーツをいよいよ試作づくり



④ 講師の方に指導してもらいながら
新商品配布の準備です。



⑤ イベントにいらしたみなさんにスイーツの
紹介し、味の感想などを聞いています。



<参加者からのコメント>

リャン ペイサンさん(マレーシア)/Ms.Lian Peisan

私は南部町の農家体験を通して、同じ家に宿泊した学生達と仲良く過ごすことができました。今回の活動で初めて色々なさくらんぼスイーツを考えながら話し合いをするのが楽しかったです。自分の国のスイーツを紹介するときは少し緊張しました。課題は難しかったですが、その後の活動は楽しかったです。私のグループはさくらんぼのムースを考えました。お祭りの前日に作ったときは冷蔵庫の冷気が弱くて失敗してしまったものもありましたが、当日はたくさんの人に配って、全部配ることができたので嬉しかったです。またこのような活動があれば参加したいです。

パク サンウンさん(韓国)/Mr.Park Sang Eun

農家民泊体験を通じて、学校では体験できない新鮮なことを体験することができて団体行動の重要性についても学びました。農家のおばあさんとおじいさんと話しながら自分の日本語の能力も向上し、日本で一緒に勉強している友達とのつながりも良くなったと感じました。南部町のみなさんと新しい出会いができてよかったです。ワークショップではさくらんぼを使った商品をみんなと協力し、色々な話ができ仲間がもっと良くなったと思います。新商品の紹介と配布の時、私たちが一生懸命作ったさくらんぼスイーツの反応が良かったので、胸がいっぱいになりました。私のグループは今まで見たことがないさくらんぼスイーツを作りましたが、この活動が今後もっと進展されて、さくらんぼスイーツを商品として売ることになったら南部町の発展にも役に立つと思いました。